

Dance with Heart
The Kikunokai Troupe
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.
Chairperson Michiyo Hata

日本のおどり

発行: 舞踊集団 菊の会

〒161-0031
東京都新宿区西落合2-21-23
03-5983-6001(代表)

菊の会京都八瀬研修所

〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町10
075-712-8701(代表)

http://www.kikunokai.co.jp/

Dancing from the heart

今 年は菊の会創立三十周年を迎えました。今日迄続けて来られましたのも偏に御支援下さる皆様のお蔭と心から感謝申し上げます。

この仕事を通し、実に人とのめぐり逢い、御縁という事の大切さを身にしみて感じる昨今です。

私事で恐縮ですが、私を育ててくれました祖母は、人との御縁を大切に、そして特に「人生は師匠で決まる」と二人の大事なお方に私をつけてくれました。そのお一人が私の舞踊の師匠初代尾上菊之丞先生でした。先生は幼くして歌舞伎の名優六代目尾上菊五郎師

に入門、歌舞伎の俳優から後に六代目に舞踊の才能を認められ、六代目みずからが尾上流の創始者となって家元を継がさせ舞踊家としての道を歩まれました。

かつて、NHKの看板アナウンサーとして有名な山川静夫氏がお書きになった文章を読んだ事があります。「東大名誉教授でドイツ文学者の手塚富雄さんが、ある時テレビのインタビューで、「いつも謙虚でいらつしやる先生ですが、もしこれ迄の人生で自慢出来ることがあるとすれば、それは何ですか」という質問に、意外にも「六代目菊五郎という役者を見た事です。」と答えたので、私は驚いた。ドイツ文学者と

歌舞伎ないしは、六代目がすぐ結びつかなかったからである。でもその後の手塚さんの話を聞いてよくわかった。「学問というのは、どうも難解を有り難がる風潮があるが、あれはいけません。学問は常識なんです。文学というものも生きていなければいけない、力がなくたってはいけません。それに何よりも分かりやすくなくてはいけません。ですから歌舞伎も同じです。六代目の芝居はその条件を全て満たしていました。そして彼には、それらの条件を一瞬のうちに見せる瞬発力がありました。六代目の芝居を見た事は私の生涯の自慢です」と。

この六代目尾上菊五郎師は、父に五代目尾上菊五郎文、師匠に九代目市川



Photo Hiroshi Mizobuchi

團十郎丈と二人の名優に育まれ、時代物から現代のものまで様々な役をものにされました。

男役、女役、童女、極悪、二枚目、三枚目と総てにわたってこなされたのです。生まれもつたまのキラキラタ1で演じられるものとは、全く異なる芸の道だといえるでしょう。六代目夫人が生前「日頃から役の研究に徹する人で、例えば道端に乞食がいると、その人をよく観察し、家に連れて来て、そのボロボロの着物をもらい、いざその役になった時、そのボロボロ着物のよ」と笑って語っていられたました。

昭和二十三年(一九四八年)六月尾上流襲名披露会の折、清元の「良寛と子守」が上演されましたが、楽屋の廊下を歩いていられる六代目の良寛の姿は、一瞬本物の僧侶が新橋演舞場に公演を観に来ていたのかと思つた程でした。

また、昭和三十五年(一九六〇年)十一月中村勘三郎、西川鯉三郎、尾上菊之丞の三人による「扇の会」が歌舞伎座で行われた際、楽屋のお手伝いに行きました所、菊之丞先生の姿がどこにも見当たらず探し回っていました。

楽屋の湯沸し場の隅に一人のお婆さんが袷に手拭いをあてて背中を丸めてじつと湯沸しの番をしていました。私はその場をすこい勢いで、行ったり来たり二、三十分探していました。なんとそのお婆さんこそ「道化師」の楽屋番おとらの役の先生だったのです。私は驚いて平身低頭の挨拶を致しました。

「二人枕久」能阿「隅田川」の狂女等、今もなお目を閉じれば大きく空気を動かしながら舞台で舞う姿がはつきりと浮かんできます。体も弱くのかんぴりと育つた私を、きりきりと動かしていつて下さった師匠があつたればこそ三十年続けて来る事が出来たと万感の感謝の思いを捧げたいと思います。そしてこれからも、今まで以上に精進し皆様への恩にお応えして参りたいと更なる思いしております。

今後共、御指導御鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

「NHK」芸能花舞台

おのえきくのり に尾上菊乃里 (畑道代)が出演



昨年の十一月十日(十七日、十九日再放送)に放映されたNHK教育番組「芸能花舞台」に畑道代が出演し、古風な柳川流三味線の音色にのって「夕顔―源氏物語」を優雅に舞い、好評を博しました。この番組の撮影は二日間にわた

って京都菊の会八瀬研修所のお座敷や庭園を舞台に行われました。地唄舞や笛の演奏、京のはやり唄などの踊り、そして芸妓さん、舞妓さんの立礼のお茶席など素晴らしい雰囲気でした。またこのお席では畑道代と女優の生稲晃子さん、アナウンサーの葛西聖司さんとで、京都独特の情緒を語らい、大変美しい秋の京都が描かれた番組は、高視聴率で大成功を収めました。

御覧下さいました皆様様に心から感謝申し上げます。

「ツチャ行かねかこの道を」

の会公演を鑑賞、出演者を激励！！

みんなが感動した！ みんなが涙した！ カッチャ！！



← 二子鬼剣舞の及川庭元御夫妻と長女の篤子さんと畑道代を囲んで



(於、中野ゼロホール)

埼玉県松伏町 田園ホール エロラ 初公演

奈良教育大学教授の久保田敏子先生から埼玉県松伏町の会館エロラの事をお聞きし初めて松伏町を訪れました。町は美しくここにこんな素晴らしい劇場があったのかと驚きました。しかし会場に適した内容のものが菊の会にあるだろうか不安もありました。

何回か企画を出し合い、検討するうちに、これはひとつとして今迄にない面白い舞台が出来るのではないかという意見が一致、当日は

舞踊家の条件

舞踊評論家
うらわまこと



舞踊家の条件、なかなか深い意味をもっていることばです。多分、それぞれの人がそれぞれの条件をもっているのではないのでしょうか。私も、私なりの条件を総論でなく、各論で記してみたいと思います。

舞踊家とはいうまでもなく舞踊をする人間です。その条件という場合、舞踊と人間のどちらに焦点をあてるかが問題です。一般的には、たとえば音楽家でもなく、いわんや企業家でもない「舞踊」家の特性に重点を置くべきでしょうが、私はあえて「人間」の条件を考えたいのです。

「芝居バカ」という、いささか差別的なことばがあります。これは、実際にはどちらからかというむしろ親しみをもって使われることが多いようです。つまり、芝居については素晴らしい力をもっているが、世間の常識にはいささか疎いといったニュアンスでしょうか。

「学者バカ」ということばもあります。ある世界的な数学者が、日常では電話の掛けかたも、ネクタイの締め方も分からない、という話を聞いたことがあります。これらは、学者としての評価を高めこそすれ、決してマイナスイメージにはならないでしょう。しかし、社会のルールを守らなかつたり、いわんや無法

な行為を行うようでは、いくら優れた部分をもっていても、社会的に、人間的に失格です。最近でもいわゆるタレントにこのような事件が再三生じ、大きな問題になっています。

さらに私は、このようなマイナスがないだけでなく、一人の市民としてもっと積極的に社会に貢献し、奉仕することが舞踊など芸術に仕える方々にも必要であると考えています。たとえば、障害をもっている方、高齢の方など、社会的に保護を必要とされる方々に対しての思いやり、そして大気の温暖化など地球環境に対する意識をもった行動などです。

私事で恐縮ですが、私もできるだけこのような意識を持ち、行動しようとして努力しています。具体的には舞踊におけるバリアフリー、すなわち障害をもつ人も自由に踊りが楽しめるようになる、という研究を始めて、実際にそのような活動をされている方々に協力しています。

皆で力を合わせて世の中を良くすることは、現在の急務です。そして、そうすることによって舞踊を行い、また観賞する環境も整うのだと思っています。このようない意識をもって行動する舞踊家を私は人間として尊敬しますし、その方は間違いなく素晴らしい芸術家です。

2001年を飾った自主公演

土屋県知事が菊

埼玉県知事

土屋 邦彦



皆様、明けましておめでとうございます。

菊の会の皆様方には、創立30周年の記念の年を迎えられ、誠にありがとうございます。重ねて、心から喜びを申し上げます。

舞踊集団菊の会におかれましては、創立以来、日本の古典舞踊を基本に、民俗芸能をモチーフにした創作舞踊をはじめとする、数多くの作品を手がけられ、国内のみならず、広く海

外においても、日本の芸能文化を大いにアピールしてこられました。

私も昨年、創作舞踊劇「カッチャいかねかこの道」を拝見させていただきましたが、日本の情緒あふれる踊りの数々が織りなす、家族の絆や力強く生きる人々の姿には、ただただ感激いたしました。

こうした皆様方の舞台創造にかけ、熱意と、友の会の皆様方の惜しみない支援に対しまして、心から敬意を表する次第でございます。



開幕前、土屋県知事が激励に

今年、私にとりましても、埼玉県知事に就任いたしましたから10年

目でございます。この「彩の国」埼玉が、これまで作り上げてきた骨格をバネに、大きく飛躍へと向かう大きな節目の年でもございます。

私も、皆様方の情熱を見習い、「燦々と光り輝く彩の国づくり」に向けて、全身全霊を持って取り組んでまいり、決意でございます。皆様方には、より一層の御支援、御協力を賜ります様よろしくお願い申し上げます。

結び、舞踊集団菊の会の限りない御発展と、畑道代

代表をはじめといたします会員の皆様方並びに友の会の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



今迄菊の会にはなかったものが引き出されていくてうれしい結果となりました。

千代忠松伏町長が京都御出身の方であり、執筆された「町長出前一丁」にもお書きの通り、町民のための町づくりが身近に感じられ遠くから初めて松伏町に来て下さった人達も異口同音にその事を話し合っていました。

千代町長はじめ松伏町の皆様、そして遠くから足を運んで下さった方々、本当に有難うございました。

NHKの新春番組に出演!

伝統をつくる、ということ



作曲家・プロデューサー 坪能 克裕 Katsubiro Tsunobu

私たちは「伝統」というと、護るものというイメージが強いと思われ、そして「舞踊」からは華やかさ、平和な文化活動を思い浮かべます。それは決して間違っていないのですが、誤解されている人々がいることも事実でしょう。

ツシブ(攻撃的)な強い意志が必要なのです。時によって破壊もあるのです。伝統は古き良き時代のものを護るのではなく、新たな創造活動という意味にあります。「つくる」ということです。そして破壊されるものと紙一重に宿る生命を見つけて、人々は先人の文化の偉大さを学び、その一点を初めて大切にすることができ

て、それを護って、後々に伝えていくものなのです。その意思は「戦闘的」でさえあります。それが「菊の会」にあります。浮かれて踊っている作品や、奇妙な新作を並べて「これが日本の伝統」と叫んでいないところに凄さがあります。その心底は戦い抜いた余裕さ見え受けられます。それ故、海外公演でも、物珍しさではない新しい美に、称賛の拍手が集まったのです。また勝てば平和が訪れる、というものではないのです。「持続させる」ことです。日々の精進、という言葉もありません。歩み続けることに大きなエネルギーと勇気が必要になりま

す。歩みながら、ある一瞬に、私たちは自然や人びとの愛、そして平和の意味を知ることができるのです。それは会の一部の人びとが分かればいいのではなく、参加された多くの人びとにより実感されることが大切なのだと思われたい。幸いにも代表の畑先生は、舞踊を通じて多くの人がとへ無限の愛情を注ぎ込める呼吸法をお持ちになっておられます。それは「つくる」ことから、私たちにありべき姿を呼び込み、共有させていただけることになるはずだ。

「未来」を信じていいんだ。

2002年の菊の会の仕事始めはNHKの新春番組「お正月だよ民謡合戦」出演でスタートした。1月2日(水)10時15分・1月3日(木)15時20分、番組の中で菊の会が踊った曲目は賑やかな「よさこい鳴子」そして情緒豊かな「佐渡おけさ」3人の芸者姿も艶やかな「長崎ぶらぶら節」そして勇壮な「関の鯛つり唄」の四曲に出演。「よさこい鳴子」は新春を寿いで鳴子や土佐の四季を描いたへよさこい飾りの小道具を畑代表がデザインし、新たな振付けで、一層華をそえた。



Information

新春の舞 公演予定 (1月~5月)

狭山市民会館自主文化事業

日本のおどり「菊の会新春に舞う」狭山市民会館 (小ホール)

1月27日(日) 午後1時・4時30分開演 ¥4,500 (全席自由)

新作 民族舞踊詩【土踏・波踏・舞踏】菊の会創立30周年記念公演

入場料¥5,000 全席自由 (当日¥5,500)

四季の彩り、海、山の千変万化。農耕、漁労、日本の風土に漲る人々の「生きる」ダイナミックな力の素晴らしさを三部構成でおくる民族舞踊詩!

3月11日(月) 板橋区立文化会館(大ホール) 午後2時30分・6時30分開演

3月14日(木) 川崎市麻生市民館 午後2時30分・6時30分開演

3月17日(日) サンシティ越谷市民ホール(大ホール) 午後2時30分・6時30分開演

新作 民族舞踊詩【土踏・波踏・舞踏】菊の会京都八瀬研修所

入場料¥4,500 (当日¥5,000)

3月21日(木) 12時30分・3時30分

3月22日(金) 12時30分・3時30分・6時30分

3月23日(土) 12時30分・3時30分・6時30分

3月24日(日) 12時30分・3時30分

東京新聞主催全国舞踊コンクール 目黒公会堂

3月15日(金) 午後2時 予選 (入場無料)

未来を担う若者達の舞踊会「さつき会」板橋区立文化会館

5月5日(日) 午後3時開演予定

ACC財団法人荒川区地域振興公社主催、荒川区共催

「恒例となった荒川公演」

9月9日サンパール荒川に於いて恒例の荒川公演が行われた。「日本のおどりを、毎年一家で楽しみにしています!」と、このようにとてもうれしいお話を下さるのは第一回目はお義理で菊の会公演を観に来て下さったAさん。今は子供さんからお母さんおじいちゃんと御一家で観に来て下さるようになりました。荒川区では毎年日本の伝統芸能に対する取り組みを続けて来て下さいました。

菊の会としましては、そのことを受けて変化に富んだ内容を心掛け、第一部では三味線楽器のみの演奏による水の流れを鮮やかに表現した「流れ」の曲にのって古くから伝わる芸能の歴史の流れを群舞で表現、次に畑代表のソロ「散る桜」、狂言舞踊「茶壺」そして第二部は日本の各地で豊かに息づいて来た代表的な海の唄、山の唄そして座敷唄の踊りをダイナミックで華やかに展開させました。そして客席からもおしめない拍手がおくられました。こうして回を重ねる度に確実に観客層のひろがりが見られ、地の利の良さで終演後は、国際色豊かなお客様が楽屋につめかけて下さり大成功の公演となった。

「思い出に残る 千葉県習志野市初公演」

9月13日(木)の「日本のおどり」は習志野市で初めての公演でしたが、後援を千葉県文化振興財団、千葉県教育委員会をはじめ習志野市教育委員会、千葉日報社、習志野市商店会連合会、津田沼南口商店会、そして谷津サンプラザ商店街協同組合からもお力添え頂き、習志野市文化ホールにおきまして開催、大成功の催しとなりました。

プログラムは9月9日の荒川と同じ内容でしたがここでも多くのお客様に喜んで頂くことが出来ました。

はじめはお客様がどの様に来て下さるか心配し、若いメンバーも駅や会場でチラシをくばり、出来る限りの努力をしていました。

そうして迎えた当日の思いはひとしおで、関係者の皆様がこの場をおかりしまして心から感謝申し上げます。本当に有難うございました。



「散る桜」を舞う畑代表



ユーモア溢れる「茶壺」

Kikunokai News 「華やかな新世紀友の会総会」

菊の会創立30年、友の会発足20年の意義をふまえた新世紀第1回目の友の会総会が昨年、9月22日午後5時よりホテルニューオータニで開催された。梅の間での総会は、総ての議題に力強い御賛同を頂き無事終了した。そしてひきつづき芙蓉の間において、懇親パーティーが行われ、各地域の方達との新しい交流が生まれ、テーブルごとに会話がはずんだ。楽しい会食の後は、菊の会の公演メンバーによる、若さ溢れるアトラクションの舞台が繰り広げられ、新メンバーも加わった舞台は又、多くの人達に新鮮な感動を与えた。

友の会恒例の抽選会では、特に遠くから来て下さった方や、新会員に不思議と当たり、大きな盛り上がりとなった。

また、次回には是非、新しい友人をお連れしたいとの声が多く聞こえた。これからも尚一層菊の会の御支援をお願い致します。

2001年の綽尾に燃えた九州民音「菊の会公演」

昨年11月3日鹿児島市民文化ホールを初日として5日宮崎市民文化ホール、6日延岡総合文化センター、7日大分文化会館で「菊の会日本の心を躍る」のタイトルで公演、各地共、晴天に恵まれ熱気溢れる九州の熱い思いのお客様に迎えられ、菊の会メンバーも思う存分それに応える舞台となった。プログラムは第一部に、総勢15名による「流れ」、畑道代による「散る桜」狂言舞踊「釣女」、そして第2部は各地の民謡や民俗芸能を網羅した「海はるか日本を躍る」で、どの会場も早い時間から長蛇の列で待って居て下さり、舞台が始まると熱い声援と惜しめない拍手を送って下さった。

Coffee Break

Essay

「伝統と明日への挑戦」

担当講師

江口 紀子

先日八王子にある富士美術館で開かれていた、「世界の知性 女性の美500年展」の鑑賞に行きました。十六世紀頃から現代に至るまでの世界各国の画家達の感銘深い作品にめぐり合い、時代を越えて心にせまる言葉で表現出来ない程の美の世界が私の心に深く刻まれ、心豊かな貴重な一日を過ごす事が出来ました。そしてその直後人間国宝の十三代目今泉今右衛門氏について書かれた文章に接する事がありました。それは「重き伝統を受け継ぎ、さらに自分分の創作作品をも生み出し、来た十三代の染付けの青と色絵の赤、黄、緑と決め

られた伝統色の世界に、果敢にもグレーを用い、新たな文様表現に挑戦し続けた。次世代に引き継ぐ大きな財産を残して今右衛門さんは旅立ったのである」と。菊の会の創立時から活動する中で菊の会が目ざす「伝統と創造」の作品づくりは毎年息もつげない程の勢いで創りつづけて来ましたが、それ等は長い目で時代を見れば日本のおどりを担っていく一里塚かも知れませんが時代の大きな力になると信じて自分もその一員として微力ながらこれからも沢山人達と共に頑張りつづけて行きたいと思っています。



プロフィール

江口 紀子

Noriko Eguchi

6歳より舞踊を始める。1969年より畑道代に師事。菊の会設立当時より、作品および数々の海外公演に参加。菊の会担当講師。